

長門市立深川小学校でシイタケの植菌体験を実施

令和6年1月26日（金）、旧長門市で活動する林業研究グループ「長門さとやまの会」（会長：福永純久）は、長門市立深川小学校の3年生（66人）を対象に、シイタケの植菌体験をしました。

これは、次代の担い手となる子どもたちに、森林の大切さやそれを支える林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうために実施した体験学習です。

当日は、森林の役割やシイタケ栽培のお話を聞いた後、児童たちは会員に教わりながら、シイタケの種駒をクヌギの原木に木槌で打ち込みました。初めてシイタケの植菌をする児童たちが多く、慣れない手つきで作業をしていました。

打ち込んだ原木は、小学校のすぐ側にある神社の境内まで軽トラックで運搬し、境内の裏に伏せ込みしました。伏せ込みが終わった後、会員は、時々でいいから伏せ込みした原木を見に来て観察してほしいと児童たちへ話をしていました。

シイタケは、児童たちが5年生になった秋に収穫する予定です。児童たちは、「早くシイタケを食べたい」と、収穫が待ち遠しい様子でした。



シイタケ栽培のお話



シイタケの植菌